

## 広島県がん対策推進協議会 第1回がん検診推進部会 議事要旨

- 1 日 時 平成20年10月7日(火) 18:30~19:30
- 2 場 所 県庁北館2階 第2会議室
- 3 出席者 委 員：河野部会長，吉川委員，合田委員，佐原委員，近末委員，野村委員  
服部委員，宮腰委員，吉田委員  
有識者：広島県健康福祉センター健康管理部次長 佐古通
- 4 議 題 (1) がん検診受診率向上対策及び精度管理について  
(2) 職域のがん検診実態調査について
- 5 担当部署 広島県健康福祉局保健医療部医療政策課医療支援グループ  
TEL (082) 513-3063 (ダイヤルイン)

### 6 会議の要旨

#### (1) がん検診受診率向上対策及び精度管理について

(議題1は報告的性質の内容であることから，意見はなかった。)

#### (2) 職域のがん検診実態調査について

- 定期検診には胃がん検診，肺がん検診の項目が含まれており，職域の検診項目に入っている  
ので，職域の実態を把握して統計に入れられると随分と数値が上がるのではないかと，実際の  
受診率が出るのではないかと思う。
- 調査依頼文の「企業名は公表しない」という箇所は，赤線でも引いて目立つようにしていた  
いただきたい。
- 職域のがん検診の実態把握は必要だと思うので，ぜひ調査を行っていただきたい。
- 市町においては平日等の検診が多くなっており，職域の方の受診は少ないことから，職域の  
受診者数を把握できればいいと思うが，現状では，特定健診，特定保健指導に保険者の関心  
は向いていて，ややもすればがん検診がなおざりになっているということがあるので，こう  
いった調査は必要だと思う。
- 子宮がん，乳がんは女性特有ということで，個人的に医療機関で受けている方もおり，そう  
いった人々を把握する形で見ると，もっと受診率が上がるのではないかと思う。
- がん検診を実施していないと回答した保険者に対して，実施していない背景にあるものを，  
差し支えのない範囲で聞いておくと，対策を考える時に参考になると思う。(例えば，「規模  
が小さいから」「相談する相手がいない」など)
- がん検診受診の有無は，結局，個人レベルの把握まで行わないとわからないということだが，

これをなんとか把握できるようなシステムは無理なのか。将来的にはそこを考えないといけない。

- 職域が実施するがん検診を受診していなくても、個人的にがん検診を受けている者もいるので、その人々を把握するために、調査票の受診者数の欄に、職域が実施する検診の受診者数と個人的に受診した者の数が計上できるように記入欄を追加して欲しい。
- この調査におけるがん検診の定義については案のとおりで良いが、「どの検査を行えば、がん検診とする」ということをわかりやすく表示して欲しい。
- 職域のがん検診実態調査に関しては、概ね事務局案ということで良い。

### (3) その他

- 乳がん検診の場合、マンモグラフィの読影医師や撮影診療放射線技師の認定制度があり標準化されているが、肺がん検診の場合には読影の標準化は無理であるか。
- 肺がん検診の標準化については、肺がんの読影能力にはものすごく差があることや、間接撮影が多く読影しにくいいため難しい面がある。
- 最小限の費用で一人でも多くのがんを見つけることが検診の考え方となっている。
- 平成 17 年度から県の委託を受けて実施していた「アスベスト講習会」で読影の試験をしていた。肺がんの読影の標準化は難しいが、訓練である程度標準化できる。肺がん学会もそこへ踏み込んでいないが、広島県だけでもそういう試みとして、何らかの権威を持ってやっていければプラスになると思う。